



国際ロータリークラブ第2620地区 2022-2023年度

RI 会長 ジェニファー・ジョーンズ

会長 矢部 英樹 幹事 石川 俊洋

朝霧アリーナより



矢部英樹会長

例会場 ゲストハウス フォレストヒルズ 例会日 毎週金曜日 月の最終週は夜間

事務所 〒418-0034 静岡県富士宮市黒田 205-1 フォレストヒルズ内 公式HP <http://fujinomiya-west-rc.com/>

TEL 0544-22-8899

FAX 0544-22-7666

Mail fujinomiyawestrotary@mountain.ocn.ne.jp

No.08 通算 1498 号 2022 年 9 月 2 日(金)

ゲストビジターの紹介

ゲスト：なし。

ビジター：株式会社カボス 小山 尊彰 様

会長挨拶 会長 矢部 英樹 君

最近コロナの感染が減少しているようですが、油断はできないのが現状で、自助自衛が一番の予防策でしょう。感染予防策について少し触れてみたいと思います。

日常生活上ウィルス感染には大まかに分類しますと、飛沫感染、接触感染の2通りが有りどちらも感染拡大の要因になっております。

まず、飛沫感染にはどのような物が有るかと言うと、居室内や、閉鎖された空間、密室に近い環境、又は感染者の風下にいる方々に対し感染者からの飛沫（くしゃみ、咳、つば、排泄物等）と一緒にウィルスが放出され、それが空気中に漂っている時に、周りの被飛沫者がそれを吸い込むことで感染します。

次に、接触感染では、くしゃみや咳が出たときに、飛沫防止のために手で押さえた後に、その手で周りに触れると、当然触れた物にウィルスが付着します。それらに触れることでウィルスが手に付着し、その手で口、鼻、目を触ることで粘膜から感染します。接触感染では特に注意が必要なのは、感染者の症状の有無にかかわらず感染者が接触しやすい、トイレ、机、椅子、携帯電話器、TV リモコンや他のリモコン器具、食器、タオル等有り、これらは確実にウィルスの検出率の可能性が高い物とされることから、これらの物品は適切な清掃・消毒・洗濯を実施するべきと考えられます。携帯電話器やリモコン器具等は、ボタン等の隙間にもウィルスが入り込みます

ので、直接器具等に触れない様、出来ればビニール袋などに入れ消毒しやすい状態で使用することが一番だと思います。接触感染の危険性ですが、ウィルスの有無は周囲の人間の健康状態からは判断できないので、接触感染リスクを減らすには、手が触れそうな個所の徹底した除菌が必要です。例えば、私たちは1時間に大体23回程度顔に触れ、其の内の10回程度は目・鼻・口等の粘膜に触れています。このことからわかると思いますが、日常のさりげない動作にはかなり感染リスクが高いと思われることも有ります。

次に除菌について少しお話しします。消毒することを除菌と称しますが、効果的に行わないと全く意味が無い除菌消毒になってしまいます。例えば、除菌消毒方法には、消毒剤を加湿器で散布やスプレーボトルでの噴霧が代表的な行為ですが、コロナウィルスは0.1ミクロンしかありませんので、散布しても噴霧液と噴霧液の間にはウィルスにとって消毒除菌されていない空間が十分な環境で残っています。実際に厚労省では消毒液の噴霧については消毒除菌効果が不確実であると発表しております。効果的な消毒除菌は基本的に、消毒除菌剤をたっぷり含ませたタオル等で清拭を行う。この場合タオルで円を描いたり往復したりせずに、一方向のみに清拭を行うのが理想的です。最善の消毒除菌は何かというと、手洗いです。例えば60秒間水だけの手洗いで、掌のウィルスは100分の1に減少、更に石鹼等の洗浄剤を使用して60秒間手洗いとすると、10,000分の1迄ウィルスを減らすことが可能です。1回60秒の手洗いを実施することで、感染リスクを大きく抑えられます。感染検査後に消毒を徹底する方を良くお聞きしますがこれは正直間違いです。

新型コロナウイルスは3日程度で不活性化します。ですから検査結果が出てから消毒除菌するのではなく、常日頃から清掃消毒を実施することが一番の除菌作業です。さて、消毒薬ではアルコール溶液、次亜塩素酸ナトリウム水が代表的ですが、どちらも万能薬とは言えません。アルコール溶液におきましては、手指の部分が目に見えて汚れている時や、タンパク質物質で汚染されている場合には、消毒液の除菌効果を下げると共に、ウイルスの吸着を助けてしまう為、清掃後に除菌を行う必要が有ります。又、次亜塩素酸ナトリウムの除菌効果はその酸化力に由来するので対象物を傷めたり、脱色したりしてしまう可能性が高く、手袋の着用と使用対象物の選択が必要とされます。

消毒・除菌には何が最適かと考えますと、手洗いが自身で手軽に行える確実な作業であり、消毒・除菌が確実に行われる作業は、煮沸消毒、高温スチームに因る消毒が確実な殺菌方法です。昨今様々な新型ウイルスが発生してきておりますが、情報に惑わされず、手洗いと可能ならば、煮沸消毒や高温スチームで対応して戴ければ安全だと思います。

本日のプログラム

【クラブ協議会】 担当：研修委員会
クラブ会員の為の内部研修

講師：貫名英舜君

世界のロータリーは全体としては拡大を続けていますが、日本を含む先進国では拡充に停滞感があります。その要因は若い世代の数的減少ですが、その他に世代間にロータリーに対する意識の違いがあるように思います。バブル崩壊以後に生まれた世代をミレニウム世代といいますが、この年代の人たちにロータリーは余り人気がないように思います。なぜ人気がないのかという理由をミレニウム世代の意識を分析し、それに併せた形でクラブの改革が必要のように思います。

ドラッカーの「顧客がいない商売は消滅する」の言のごとく、後継者のいない組織は未来において消滅するのであって、もし、クラブの存続（クラブ奉仕）に対して時代の責任者として自覚をもつならば、どうすれば、次世代の人たちにロータリーの良さをアピールし、未来のクラブを担う者として入会してもらい、ロータリアンとして育てて行くことが出来るかを真剣に考えなければならぬということです。

RLI 研修によるリーダーの創出という試みはロータリーの未来を担う次世代をリードする役割を果たす人材を今のうちに生み出していかうというものであると思います。RLI は一つにはロータリーに関する知識を徹底的に学ぶことを求めます。その上で、ファシリテーションというこれまでにない論議のスキルを身につけることを求めています。この意図するところは、第一義に有能な若い世代に「居心地のよい場」としてのロータリーを提供する姿勢を示すところにあります。若い世代は、意見をぶつけ合いつつ、合意形成する形を嫌いません。また、ひたすら聴くことを求められるもNGです。むしろ、自分の意見を発信したいと考えますし、それが「承認」されることにおいてコミュニケーションが成り立つと考えています。ファシリテーションというシステムは現代の年代階層が異なる組織体の維持と運営において欠くことができない方法であることはすでに認められていると言えます。しかし、すぐにそれを導入して実践することは困難です。しかしながら、未来においてそうならばよいというのではなく、少しずつでもロータリーの未来形に向かってクラブを自ら変革して行く必要があると言えます。現RI 会長のジェニファー・ジョーンズは「IMAGINE」を年度テーマにすえましたが、そこにはロータリーの未来形を想像し、その目標に向かって

幹事報告

幹事 石川 俊洋 君

別紙幹事報告を参照ください

出席報告

☆は出席免除者

欠席者：☆片岡博昌 ☆外木規之 仲亀秀樹 後藤憲治
渡辺弘光 渡邊奈津実 大谷裕也 早川英寿

	会員数	計算会員数	出席	欠席	M U	比率
今週	26	22	18	6	0	81.81%

スマイルボックス

*貫名さん 今日はよろしくお願ひします。

若林眞治君

*後期高齢者に突入 嬉しくもなし。

赤池次郎君

*この頃、体のあちこちが痛い。

遠藤壽男君

*ありがとうございます！

石田道彦君

お祝い・記念日

会員誕生日： 赤池次郎君 S22, 9, 5
石田道彦君 S34, 9, 8
夫人誕生日： 早川英寿夫人 朋美様 9, 7
入会記念日： 近藤憲司君 H24, 9, 7
創業記念日： 矢部英樹君 H21, 9, 11

今という日々を過ごしなさいというオーダーが含意されていてと考えるべきでしょう。 少しずつ確実に変わって行く…というところに我々自身の意識改革のポイントを置いたらどうか、例えば、女性会員を受け入れるためにはセクハラにならないようにしようと考えるように、次世代の会員の「こちよい居場所」を提供する際において、パワハラにならないよう気を使うなど…の意識を持つことが必要だと思います。

ロータリーは近未来においてどのように変化するか
～ AI ソリューション（問題解決）とロータリー～

ロータリーの未来形とは何かーこれを管理面から私論してみます。一つの座標となるのは、「2045年 シンギュラリティ」という未来予測です。今、世界はAI (Artificial Intelligence) の開発、進化、普及が急速に進んでいます。2045 シンギュラリティとは、AI が人間の知的能力を越える臨界点のことです。この進化はもう止められないと考えるべきでしょう。 現在世界140万人、34,000クラブが、2030～2040年代には300万人、50,000クラブに達するものと思われます。しかも、南アジア、南アメリカ、そしてアフリカなどに拡大し、現在よりもっと大きな文化的な格差のある世界の中にロータリーは置かれることとなります。多様化よりも複雑化した世界の中にロータリーは存在する時に、従来の形での管理運営はたぶん困難になります。この複雑化したネットワークを維持するためには、AI に集中管理という方法が試されることになると思います。

今、世界のロータリーは地域からゾーン制に移行しつつあります。多様なものを多様なままに分岐し、かつ、それが全体としての一体となる形はいかに可能かが実験的に試されていると考えるべきです。このゾーンごとに発信される様々な情報を一元的に管理し、それぞれのゾーンの要望に対して双方向に応えつつ、RIとしての一体性を示すという方法がとられているということです。

また、学びの形も変わって来ています。MY ROTALY のサイトには、ほぼロータリーの全域にわたる知識や組織、運用、手続きに関する知識が網羅されています。次世代ロータリアンはこのサイトを利用しての学びでロータリーを学ぶことになると思います。これも将来のAI ソリューションの一つであるディープラーニング（機械学習）への布石となるものでしょう。

AI ソリューションには組織の管理（行財政・ルール運営・名簿管理など）とともに、個々のロータリアンのディープラーニング教育、そして、“人間がいなくても最

もよい方向性を示すことのできる”意志決定能力が期待されているのです…イヤでも！